

先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人⁽¹⁾ 関係史研究の可能性

佐 藤 円

はじめに

アメリカ史研究におけるマイノリティ史研究は、公民権運動をはじめとする各種の社会改革運動や「新しい社会史」研究の影響を受けつつ、1960年代以降急速に発展した。なかでも先住アメリカ人（インディアン）史研究とアフリカ系アメリカ人（黒人）史研究は、女性史研究や移民史研究などとともに、マイノリティ史研究の牽引役を果たしてきた分野であり、これまでの研究の蓄積も著しい。しかしそれらの研究は、主として歴史的に支配的な地位を占めてきたヨーロッパ系アメリカ人（白人）との関係をめぐって論じられてきたものであり、先住アメリカ人やアフリカ系アメリカ人が他のマイノリティ集団との間で、歴史的にどのような関係を築いてきたのかという問題を解き明かそうとしたものは、必ずしも多くなかった。このことは、マイノリティ史研究の第一の目的が、支配者であったマジョリティとの関係の問い直しにあったという事情を反映しているものと思われるが、多様なマイノリティ集団が他の様々な集団との間に築いてきた歴史的な諸関係をも包含した、より多元的で重層的なアメリカ史を再構築していくためには、マイノリティとマジョリティの関係史のみならず、マイノリティ集団間の関係史研究もさらに発展させ、全体史としてのアメリカ史と有機的に結びつけていく努力が不可欠だと言える。

そこで本稿では、そのような研究の発展に多少なりとも寄与するため、様々な組み合わせることが可能なマイノリティ集団間の関係史の中から先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史を取り上げ、それがこれまでどのようなテーマをめぐって論じられてきたのかを紹介するとともに、その研究上の特徴や問題点について論じてみたい。その上で、諸研究のうちから特に人種意識や人種概念をめぐって展開されている議論に焦点を当て、それがアメリカ史研究において担い得る役割について、筆者なりの見通しを提示してみたいと考えている。

ところで、これまで行われてきた先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究は、後述するように個別のテーマに焦点を当てたものがほとんどであったが、なかには全体を通史的にまとめようとしたものが、わずかではあるが存在している。その最も古い例が、1930年代に発表されたケネス・ウィギンス・ポーターの論考（Porter, 1932, 1933）であるが、それ以降長らくこのような試みは積極的に行われず、ようやく最近になり、ウィリアム・ローレン・カツとキム・ドラマー（Katz, 1986 ; Dramer, 1997）が新たに一般の読者向けに通史を執筆したことによって再開されたという状況にある。しかしこれらの通史は、

いずれもまだ十分に体系化された内容とはなっておらず、個々の逸話を時代ごと、或いは地域ごとに繋いだものに留まっている。やはり体系化された通史を描くためには、個別の研究の蓄積がより一層進むことと、先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史全体に一貫性を持たせるような何らかの普遍的な枠組を案出する必要があるように思われる。

一方、日本において先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史は、これまでどの程度注目されてきたであろうか。最も多角的に論じているものは、インディアン奴隷制度と黒人奴隷制度の併存状態やインディアンが行った黒人奴隷制度、そして逃亡奴隷とインディアンの協力関係について検討している富田虎男氏の著書（富田，1982）であるが、それを除くと、小山起功氏の書評論文（小山，1985）及びチェロキー族⁽²⁾の黒人奴隷制を分析した鶴月裕典氏の論考（鶴月，1997）と拙稿（佐藤，2005b）があるのみで、管見の限り、その他には先住アメリカ人とアフリカ系アメリカ人の関係を直接検討したものはない。実際のところ、筆者が数年前に先住アメリカ人とアフリカ系アメリカ人の関係に焦点を当てたアメリカのマイノリティ史についての概説を執筆した際に（佐藤，2004）最も参考になった日本語の文献は、依然として20年以上前に刊行された富田氏の著書であった。このような状況が背景となっているためであろうが、日本で刊行されているスタンダードなインディアン史や黒人史の通史（清水，1971；藤永，1974；猿谷，1968；本田，1991）においても、先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係に関連する記述は、ごく限られたものとなっている。それゆえ日本における先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究は、今もなお、ほとんど未開拓の分野であると言って差し支えないだろう。

先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究の歴史と現状

さて、これから先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究の歴史と現状を概観していくのであるが、その際にまず確認しておかなければならないことがある。それは、先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史が成立するためには、先住アメリカ人とアフリカ系アメリカ人が物理的に接触している状態が一定の場所で、一定の期間継続していたということが必須ではないまでも、条件としてかなり重要になってくるということである。この条件の重要さは、これまで行われてきた先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究が、特定の時代の、特定の地域に関するものに集中しているという状況からも察することができる。では実際に、どのような時代に、どのような場所において両者は接触し、それについてどのようなテーマでこれまで研究が行われてきたのか、以下おおよその時代区分に従いながら地域ごとに紹介をしていきたい。

(1) 植民地時代

「インディアン（インディオ）」とヨーロッパ人から呼ばれた先住アメリカ人とアフリカ人

の接触は、早くもコロンブスが最初の航海のときに水先案内人としてアフリカ人を同行した時に始まったとする説があるが、後にアメリカ合衆国となる地域に限って言えば、おそらく16世紀に現在のアメリカ合衆国南部や西部を探検したスペイン人がコロンブスと同じように従者としてアフリカ人を同行したことによって始まったと考えられる。その後16世紀から19世紀にかけてスペインが現在のアメリカ合衆国の南西部や太平洋岸、そしてフロリダ半島を植民地化するなかで、労働力として導入されたアフリカ人奴隷と先住民であるインディアンが恒常的に接触するようになり、両者が生活空間を共にするという状況が生まれるようになった。

このうち南西部や太平洋岸におけるインディアンとアフリカ人の関係については、スペイン人によって連れてこられたアフリカ人の数が少なく、インディアンとの接触が小規模であったため、ディードラ・S・マクドナルドが論じているように (McDonald, 1998)、両者の関係が後の時代に残した影響はごく限定的なものであった。そのためクウィンタード・テイラーが多人種社会の歴史として描いた西部史のような例外は除き (Taylor, 1998)、スペイン統治下の南西部や太平洋岸におけるインディアンとアフリカ人の関係については、歴史の叙述においてほとんど取り上げられることはない。この地域の問題は、もっぱら先住民とスペイン人の関係という文脈で議論されてきている。

一方スペイン統治下のフロリダ半島では、その初期に、スペイン人による植民地化の過程で、伝染病の蔓延や奴隷化によって激しい先住民人口の減少が起こった。その結果発生した労働力不足を補うためにアフリカ人奴隷が持ち込まれたが、その際に生き残ったインディアンとアフリカ人奴隷がどのように接触したのか、またその結果どのような関係が両者の間に生まれたのかについて正面から取り扱った研究はほとんど見当たらない。しかしその反面スペイン統治の末期、つまりアメリカ合衆国の独立から19世紀初頭にかけての時期のフロリダ半島に関しては、研究上大きな注目を集めている。この点については、次節の「独立から南北戦争まで」において説明する。

さて、フロリダ半島以北の大西洋岸には、17世紀の初頭からイギリス領とフランス領の植民地が形成されるが、このうちイギリス領植民地では、17世紀の前半から徐々にアフリカ人を年季契約奉公人として、或いは奴隷として輸入するようになり、その結果インディアンとアフリカ人が直接接触する機会が増えていった。特にイギリス領のヴァージニアやカロライナといった南部植民地においては、タバコなどの商品作物を生産するプランテーションが形成されると、その労働力としては、アフリカ人ばかりでなく戦争で捕虜となったインディアンも利用されたので、両者は実際の生活空間を共有することになり、その関係も深まっていた。その結果、彼らの間に混血が進行していったことは、古くはジェームズ・ヒューゴ・ジョンストンの研究 (Johnston, 1929) や、近年のものではゲアリー・B・ナッシュの研究 (Nash, 1999, 2000) が指摘している通りである。

実際のところ、このインディアンとアフリカ人の混血の発生という状況は、南部植民地に

特有のものではなく、広く東海岸一帯に共通していた。例えばニューイングランドの諸植民地においても、ヨーロッパ人による支配が確立していくなかで、空間的に周辺化された者同士としてインディアンとアフリカ人が接触し、融合する機会が増えていったことがカーター・G・ウッドソンによって早くから検討され（Woodson, 1920）、最近でもダニエル・R・マンデルやラッセル・ローレンス・バーシュによって研究されている（Mandell, 1998 ; Barsh, 2002）。その融合の結果生まれた混血者たちは、他の人々とは離れて独自のコミュニティを形成して暮らしていたが、現在でもそのようなコミュニティがニューイングランドを含む東海岸の各地（例えばニュージャージーのジャクソン・ホワイト、ロードアイランドのナラガンセット、ノースカロライナのランビーなど）に残存している。

これに対して南部植民地においては、当初曖昧であったインディアンやアフリカ人、そして両者の混血の社会的身分が、17世紀の後半以降、各植民地における立法によって段階的に「奴隷」という身分に固定されていった。しかしその際に、インディアンとアフリカ人を、そして両者の混血をどのように区別するのかということが問題となった。このようなイギリス領北アメリカ植民地における奴隷制度の形成の問題を、インディアンとアフリカ人、或いは両者の混血に対する白人の人種意識の変化という観点から検討したものに、ジャック・D・フォーブスの研究（Forbes, 1993）がある。実際のところフォーブスの研究は、イギリス領のみを、或いは植民地時代だけを扱ったものでもなく、かなり長い時代にわたるアメリカ大陸の各地における人種概念の変化を、人種呼称の分析を通して比較研究したものであるが、「黒人」という人種がいかに歴史のなかで人為的に構築されてきたのかという問題を、インディアンやインディアンとアフリカ人の混血という人種的に中間的な存在に焦点を当てながら、より立体的に説明しようと試みている。

また一方、インディアン奴隷の存在が黒人奴隷制度の形成にどのような影響を与えたのかということも重要なテーマであるが、この問題については、アラン・ギャレイがイギリス領北アメリカ植民地南部で行われていたインディアン奴隷貿易について詳細に検討した研究（Gallay, 2002）のなかで、これまでもしばしば指摘されてきたことではあるが、インディアン奴隷貿易とアフリカ人奴隷貿易の相互補完関係の重要性を再確認している。

結局のところ、18世紀の前半以降インディアン奴隷の供給が途絶え、それとは反対にアフリカ人奴隷の供給が増大していったことで、イギリス領北アメリカ植民地における奴隷制度は、「黒人」という人種を中心とした制度に収斂していったが、その際にかつてかなりの数存在していたはずのインディアン奴隷や、インディアンとアフリカ人の混血の奴隷がどのように「黒人」という人種に吸収されていったのかという問題については、まだ十分に解明されていない。

ところで、奴隷制プランテーションに立脚した植民地経営を成功させようとしていたヨーロッパ人にとっての心配は、植民地を拡大するために土地をめぐる常に対立関係にあったインディアンと、プランテーションの労働力として酷使していた黒人奴隷が協力関係を形成

し、支配者に反旗を翻すことであった。実際にしばしば黒人奴隷たちはプランテーションから逃亡し、ヨーロッパ人と敵対していたインディアンに保護を求めていたし、追跡者が容易に入りこめない森林や湿地帯の奥地に独立した集落を形成し、時にはインディアンとの協力関係をつくり上げ、ヨーロッパ人と対決することさえあった。この一般にマルーン (maroon) と呼ばれる逃亡奴隷とインディアンの協力関係については、ハーバート・アップシカーの研究 (Aptheker, 1939) など古くから注目を集めてきた。この問題については、次節の「独立から南北戦争まで」において改めて説明する。

これに対し支配者であるヨーロッパ人たちは、インディアンと黒人を「分断して統治する」ために、対インディアン戦争に黒人奴隷を兵士として動員したり、逃亡奴隷の追跡にインディアンを雇ったりして、両者の間に敵対関係を醸成しようと画策していた。この点については、ウィリアム・S・ウィリスが説明している通りである (Willis, 1963)。

(2) 独立から南北戦争まで

アメリカ合衆国の独立から南北戦争までの時期を扱った研究に見られる一つの特徴は、研究対象がアメリカ合衆国南東部に居住していたインディアンと黒人の関係に集中しているという点である。この地域に居住していたインディアンは、18世紀の末から19世紀の初めにかけて、合衆国政府や宣教師たちの勧めに応じて白人の生活様式を積極的に受け入れ、いわゆる「文明化」⁽³⁾ を遂げたことでよく知られている。特にそのようなインディアンのなかでも、白人社会との交易などで富裕化していたエリート層の間では、黒人奴隷を使ったプランテーション経営が行われていた。この「文明化」した南東部のインディアンたちは、結局のところ1830年代から40年代にかけて、合衆国政府の強制移住政策によって現在のオクラホマにあたるインディアン・テリトリーへと強制移住させられたのであるが、その際に彼らに所有されていた黒人奴隷たちもまたインディアンの主人と共にインディアン・テリトリーへと移住させられ、その後も南北戦争まで奴隷としてインディアンに所有され続けたのである。この南東部のインディアンが行っていた黒人奴隷制度についての研究こそ、独立から南北戦争に至る時代の先住アメリカ人—アフリカ系アメリカ人関係史研究において、特に強い関心を集めている二つのテーマのうちの一つである。

そのようなインディアンが行っていた黒人奴隷制度に関する代表的な研究には、チェロキー族における黒人奴隷制度の発展を検討したラジャード・ハリバートン・ジュニア、セダ・パーデュー、そしてウィリアム・G・マクローリンらの研究 (Halliburton, Jr., 1977; Perdue, 1979; McLoughlin, 1984; McLoughlin, et al., 1984) や、クリーク族における奴隷制度の発展を検討したキャサリン・E・ホランド・ブラウンドの研究 (Braund, 1991) などがある。これらの研究は、黒人奴隷制度をインディアンが受け入れたことによって、いかにインディアン社会が分裂し、弱体化していったのかという問題を、主としてインディアン側の視点から描いている。これに対し、近年刊行されたチェロキー族とクリーク族における先住アメリ

カ人－アフリカ系アメリカ人関係を、南北戦争を中心とする一世紀にわたって比較検討したカッジャ・メイの研究（May, 1996）や、南北戦争期のチェロキー族において黒人奴隷制度に反対していた伝統派の部族民について検討を加えたパトリック・N・ミンジスの研究（Minges, 2003）、そして強制移住以前に白人のみならず黒人とも混血したクリーク族のある一族の歴史を辿ったクロウディオ・ソーントの研究（Saunt, 2005）は、かつて黒人奴隷を所有していたインディアン諸部族に現在でも残る根強い人種主義の影響を、歴史学的観点から批判的に検証しようとした今日的な問題意識を持った研究で、先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究の新しい方向性を示すものと言える。

さて、この独立から南北戦争に至る時代の先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究で注目されているもう一つの問題は、19世紀初頭までスペイン領であったフロリダ半島に居住していたセミノール族と、アメリカ側のプランテーションから逃げ込んできた逃亡黒人奴隷の関係である。セミノール族は逃亡奴隷たちを受け入れ、彼らに独自の集落を形成させて、セミノール族に対する貢納の義務を課していたと言われているが、このセミノール族による黒人支配が、白人や他のインディアンが行っていた黒人奴隷制度とどのように異なったものであったのかについては、史料が限られており、その詳細は分かっていない。ただ史実としてははっきりしていることは、19世紀の前半に両者が協力して共通の敵であるアメリカ軍を相手にセミノール戦争を戦ったという点である。このセミノール族と黒人の協力関係については、ローレンス・フォスター、ケネス・ウィギンス・ポーター、J・リーチ・ライト・ジュニアらが早くから研究しており（Foster, 1935 ; Porter, 1943, 1950, 1951 ; Wright, Jr., 1968）、最近ではジョージ・クロスやブルース・エドワード・トワイマンが政治史や外交史の観点からも検討を加えている（Klos, 1995 ; Twyman, 1999）。

しかし史料的な制約があるためか、セミノール族と黒人の関係についての研究は、19世紀前半の強制移住以前の時期に限定したものよりもむしろ、より史料が豊富なインディアン・テリトリーへの強制移住以後の時期に重点を置いたものの方が多く、また近年では特にブラック・セミノール（Black Seminole）と呼ばれたセミノール族に受け入れられた黒人に焦点を当てたものが増加している。そのような研究の代表例としては、ダニエル・F・リトルフィールド・ジュニア、レベッカ・B・ベイトマン、ケヴィン・マルロイ、ジェフ・グウィンの研究（Littlefield, Jr., 1977 ; Bateman, 1990 ; Mulroy, 1993 ; Guinn, 2002）が挙げられる。これらのうち特にベイトマンの研究は、ブラック・セミノールをアメリカ大陸の各地に見られたマルーンの一例と捉え、やはりマルーンである中央アメリカのブラック・カリブ（Black Carib）と比較研究することで、アメリカ合衆国という枠組を越えて、先住民とアフリカ人の関係の有様を相対化し検討を加えた新しいタイプの研究である。一方マルロイの研究は、ブラック・セミノールという二重のアイデンティティを持つ存在が、どのようにしてインディアン対白人、或いは黒人对白人という人種において二項対立的なアメリカ社会を生き抜いてきたのか、少数派のなかの少数派という視点から本格的に検討を加えたものとして注目できる。

(3) 南北戦争から20世紀初頭

南北戦争から20世紀初頭にかけての時期を扱った研究が、特に強い関心を払っている地域がインディアン・テリトリーである。この地域に暮らし、黒人奴隷を所有していた南東部出身のインディアンたちにとって南北戦争は、強制移住に続く部族存亡の危機であった。ほとんどの部族は、南部と北部のどちらを支持するかで部族内が分裂し、それぞれの部族の中でも内戦が勃発し、彼らが暮らす土地は戦場と化していった。このインディアン部族の内部分裂の背景には、それぞれの部族が所有していた黒人奴隷に対する部族民の間における認識の違いがあった。この問題については、すでに紹介したパトリック・N・ミンジスの研究(Minges, 2003)やウィリアム・G・マクローリンの研究(McLoughlin, 1993)などチェロキー族について検討したものが詳しい説明を行っている。

確かに南北戦争はインディアン・テリトリーに暮らすインディアン諸部族に荒廃をもたらしたが、その一方で彼らに所有されていた黒人奴隷たちには、奴隷身分からの解放をもたらした。この奴隷身分から解放された黒人たち、つまりフリードマンと元の主人であるインディアンとの関係が、南北戦争からインディアン・テリトリーが解体されてオクラホマ州が成立するまでの期間の先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究の主要なテーマの一つである。そのような研究の代表としては、チェロキー族やチカソー族のフリードマンに焦点をあて検討を加えたダニエル・F・リトルフィールド・ジュニアの研究(Littlefield, Jr., 1978, 1980)があるが、近年刊行されたマーリー・R・ウィケットの研究(Wickett, 2000)は、フリードマンとインディアンという二者関係に留まらず、フリードマンとインディアンと白人という三者が織り成す人種間関係を比較研究の手法で包括的に検討しているという点で、これまでにはない研究の方向性を示している。

さて、南北戦争後の時期を扱う研究において無視することができないもう一つの分野として、西部におけるインディアンと黒人の関係についての研究がある。南北戦争終結後、憲法の修正によって奴隷身分から解放されたフリードマンたちの一部は、経済的な自立の機会を求めて、白人の入植者と共に、農民として、或いは兵士として西部へ移住していった。彼らの西部への移住は、白人中心のアメリカ史の視点から見た場合、白人主導の西部開拓の一翼を担うものであったが、その一方で先住アメリカ人史の視点から見た場合には、インディアンに対する征服事業の一部でもあった。特に兵士となって対インディアン戦争に従軍した一般にバッファロー・ソルジャー(Buffalo Soldier)と呼ばれる黒人兵たちは、その直接の当事者であったが、このような黒人の西部進出を扱った研究は、往々にしてアフリカ系アメリカ人史という枠組のなかで行われており、忘れ去られていた黒人の偉業を発掘しようとする色彩の強いものとなっている。そのような研究の典型としては、T・G・スチュワード、ウィリアム・H・レッキー、ウィリアム・ローレン・カツツ、ジョン・W・ラヴェジらの研究(Steward, 2003; Leckie, 1967; Katz, 1987; Ravage, 1997)があるが、これらの研究においてインディアンは、かつての白人が主人公の西部史と同様に脇役の地位しか与えられていない。

このような視点の偏りは、先住アメリカ人史の側にも往々にして見られ、インディアンを中心に据えた西部史研究においてインディアンとの関係性が注目されるのは大抵白人であり、黒人との関係にはほとんど関心が払われていない。しかしそのような偏りが見られるなかでも、前述したクウィンタード・テイラーの研究（Taylor, 1998）は例外的存在で、黒人に重点を置きながらも、白人のみならずインディアンとの関係にも注目した多元的な西部史研究となっていることは強調しておきたい。

（4）20世紀初頭から現代まで

さて、最後に20世紀初頭以降の時期を扱う研究であるが、19世紀の末までにおおかたのインディアンが保留地に強制収容されてしまい、特定の地域を除いてインディアンが黒人と直接接触する機会をもたなかったことが理由であると考えられるが、この時期の先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係を歴史学的に検討した研究は少ない。インディアンと黒人が接触する可能性があった特定の地域、例えば元のインディアン・テリトリーであるオクラホマ州や、インディアンが残存した南部の一部における先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係を論じた研究はいくつかあるが、そのほとんどは人類学や社会学の研究で、必ずしも歴史学研究として行われているものではない。そのような人類学的、或いは社会学的研究の例としては、インディアンと黒人と白人の血を引くと言われているノースカロライナ州のランビー族が、白人と黒人という二分法しか認めようとしめない南部社会において、どのようにしてエスニシティを回復させようとしてきたのかを検討したカレン・I・ブルー研究や（Blu, 2001）、1970年代に部族政府を再建したオクラホマ州のチェロキー族が、どのようにしてフリードマンの血を引く人々を部族の構成員から排除しようとしてきたのかを分析したサーシ・スタームの研究（Sturm, 1998, 2002）などがある。

しかしながら、それらの研究が取り扱っているエスニシティの形成や人種概念の再編といった当事者たちのアイデンティティに関わる問題は、歴史学のテーマとしても近年とみに注目を集めているものであり、今後は歴史学も20世紀初頭以降の時代が規定する先住アメリカ人とアフリカ系アメリカ人の関係の有り様や性格を積極的に意味づけていく必要があると思われる。

まとめ

最後に、以上のような先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究が、アメリカ史研究にどのような貢献ができるのかという問題について、先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係という枠組のなかで展開されている人種意識や人種概念をめぐる議論を手がかりに、筆者なりの見通しを提示してみたい。

本稿で紹介してきた通り、近年の先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史研究にお

いては、「人種」をテーマに検討が行われているものが増加している。例えばアメリカ大陸各地の人種呼称の比較を通して先住民やアフリカ人に対する人種概念がどのように形成されてきたのか検討したジャック・D・フォーブスの研究（Forbes, 1993）や、インディアンと黒人の社会的融合と混血がニューイングランドにおいてどのように展開され、それが当事者たちや周囲の白人社会の人種意識や人種概念をどのように変化させたのか検討したダニエル・R・マンデルの研究（Mandell, 1998）、さらには、同じ祖先を持つクリーク族のある一族が白人と混血した者と黒人と混血した者によってその子孫が人種的に分断されたという問題を歴史的に辿ったクロウディオ・ソーントの研究（Saunt, 2005）などがその例である。これらの研究は、これまで盛んに行われてきた「正史」において無視されてきたマイノリティの歴史的経験をマイノリティの視点から掘り起こすことに主眼を置いた諸研究とは異なり、アメリカ史研究においては避けて通れない人種意識や人種概念というより普遍的なテーマを、先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係というこれまでとは異なった枠組みを使って、構築主義的な視点から検討を試みたものである。

これに対し筆者は、これまで先住アメリカ人史研究のうち、特にチェロキー族を対象とした研究を行ってきた。チェロキー族は前述した通り、白人文化を受容していく過程で黒人奴隷制度を受け入れ、白人社会で一般的だった人種意識や人種概念を内面化させ、黒人を支配する体制を作り上げていったインディアンである。先住アメリカ人史研究においても、ひとたびチェロキー族のような対象に関心を持ち始めると、ただ単にインディアン対白人というような二項対立的な視点から、インディアンが被害者で白人が加害者という図式で議論を進めるだけでは済まされない状況に直面する。しかし自戒を込めて言えば、そのような状況があることは自覚していながらも、往々にしてインディアンが被害者でいられるような事象にのみ目を向け、安易なインディアン中心主義の視点に逃げ込む傾向が筆者にも無かったかと言えば、否定できない部分がある。そのような傾向を持つ先住アメリカ人史研究は、ちょうど大森一輝氏がアフリカ系アメリカ人（黒人）史研究の課題について論じた際にアフリカ系アメリカ人（黒人）史研究が陥りがちな問題として指摘したことがらと同種の問題をはらむもので（大森, 2000）、先住アメリカ人（インディアン）史研究の矮小化を招くものに他ならない。それゆえチェロキー族の歴史のような、インディアンと黒人が不可分の関係性を持つ対象を研究する際には、積極的に先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係という枠組みを活用して、ヨーロッパ系アメリカ人（白人）との関係史に偏りがちな先住アメリカ人史を修正し、さらには同種の偏りを持つアフリカ系アメリカ人史にも従来とは異なる視点を提供すること、またそうすることによってそれぞれの研究を一旦相対化した上で、改めて全体史としてのアメリカ史へ統合していく努力が求められているのではないだろうか。

そのような方向性を追求する者にとって、近年の先住アメリカ人－アフリカ系アメリカ人関係史において熱心に展開されている人種意識や人種概念の歴史的変化をめぐる議論は示唆に富んだものである。人種意識や人種概念というアメリカ史研究においては相当程度普遍化

できる問題を、先住アメリカ人とアフリカ系アメリカ人がともに関係している事象についての議論に持ち込むことによって、従来分断されていた先住アメリカ人史とアフリカ系アメリカ人史を有機的に結びつけていく可能性が出てくるからである。この点について再度チェロキー族を例に述べるとするならば、本来は固有の人種概念を持たなかったチェロキー族が、白人文化の一部として受け入れてしまった白人社会の人種概念とそれに基づく人種意識から今日でも解放されていないという状況について、具体的に言えば、現在のチェロキー・ネイション政府が、たとえチェロキー族と混血していてもフリードマンの子孫には部族民としての資格を認めようとしな一方、白人との混血者に対してはほとんど無制限にその資格を発給しているというような状況について、それがどのような歴史的経緯のなかで構築されてきたのか、インディアンと黒人のそれぞれの側が持つにいたった人種意識や人種概念の歴史的変化に焦点を当てながら検討することができれば、いかに「人種」というものがアメリカ社会の非主流の人々の間でも再生産され得るものかということについて、そのメカニズムを含めて明らかにできるのではないかと考えられる。このことは、アメリカ史研究の別の分野で、別の枠組みを使って展開されている人種に関わる研究に対して、建設的な影響を与えるものではないだろうか。

以上のように、先住アメリカ人―アフリカ系アメリカ人関係史研究は、適切な分析の枠組みや視点を選びさえすれば、決して個別的で特殊な研究分野とはならず、全体史としてのアメリカ史研究に直接貢献できる可能性を有している。しかしそれを具現化するためには、その前提として、先住アメリカ人史研究とアフリカ系アメリカ人史研究の交流を促進する必要がある。すでにアメリカにおいては、2000年にダートマス大学で“Eating Out of the Same Pot: Relating Black and Native (Hi)stories”と題した学会が開催され、先住アメリカ人史研究者とアフリカ系アメリカ人史研究者の本格的な意見交換の試みが始まった。この学会に関してはヴァレリー・J・フィリップスの論考(Phillips, 2002)が詳しいが、それによると、依然として両者には基本的な認識や視点の違いが存在しているようであるが、それでも二つの研究を連携させていくことの重要性については意見の一致を見ている。また実際にこの学会を機に始まった研究の連携がすでに新たな研究成果を生み出している(Miles and Holland, 2006)。このような先住アメリカ人史研究とアフリカ系アメリカ人史研究の交流や連携は、日本の学界においても必要であろうし、もしかしたら研究上の認識や視点の共有は、直接の当事者とは異なる「場」から研究していることの有利さによって、アメリカ以上に進む可能性もある。本稿がそのような交流や連携を促す小さなきっかけになることを願いつつ、ここではひとまず筆を擱くことにしたい。

付記：本稿は日本西洋史学会第54回大会アメリカ史部会（2004年5月22日）における報告原稿に加筆・訂正を施したものである。

註

- (1) 本稿の題目においては、「先住アメリカ人」と「アフリカ系アメリカ人」という呼称を用いているが、これは近年彼らを取り巻く政治的状況が生み出した新しい呼称である。しかし、そのような呼称が存在しなかった時代を扱うことが多い歴史学研究においては、研究対象とする時代が政治的に規定する人種的・民族的枠組みに適合した呼称を使わざるを得ないことがしばしばある。特に本稿では、多様な先住アメリカ人のうち、特に歴史的に「インディアン」と呼ばれてきた人々を扱うため、本文中においては時代とそこで説明しようとする文脈に合わせて、「先住アメリカ人」と「インディアン」を使い分けていくこととする。また同様にアフリカ系アメリカ人については、「アフリカ系アメリカ人」と「アフリカ人」と「黒人」を、さらにヨーロッパ系アメリカ人については、「ヨーロッパ系アメリカ人」と「ヨーロッパ人」と「白人」を使い分けていく。
- (2) 近年「～族」或いは「部族」という用語の使用をめぐるのは、その西洋中心主義的で植民地主義的な含意に対して文化人類学者などから批判が起こっており、「～族」という表記に代わり、「～人」或いは「～民族」という表記を使用すべきであるとの指摘がなされている。確かに「民族」と「部族」という用語の間には概念上有意な差異はなく、それでも特定の、それも歴史的に「未開」とされてきた集団にのみ「部族」という用語を使用するとなれば、そこには文化に優劣を認めるイデオロギーが潜んでいると批判されても仕方ないであろう。しかしその一方で、「民族」という概念も「人種」という概念と同様に、近代の歴史が構築したものであり、歴史研究で取り扱うあらゆる時代に適用できるかどうかは疑問が残る。そこで本稿においては、「部族」という用語の問題性は認識しつつも、その歴史研究における取り扱いは今後の検討課題にするとし、暫定的に使用し続けるものとする。「部族」という用語への文化人類学者からの批判については、スチュアート ヘンリ『民族幻想論—あいまいな民族 つくられた人種』（解放出版社、2002年）を参照。
- (3) 本稿で使用する「文明化」という用語は、白人文化を積極的に受容することが即ち文明化することであるという、白人文化の優越性を絶対視する本稿で取り扱う時代に支配的であった価値観を反映した用語であり、筆者のそれに基づくものではない。

参考文献

Abel, Annie Heloise

1915 *The American Indian as Slaveholder and Secessionist*. Cleveland: Arthur H. Clark.
(Reprinted: Lincoln: University of Nebraska Press, 1992.)

1919 *The American Indian as Participant in the Civil War*. Cleveland: Arthur H. Clark.
(Reprinted as: *The American Indian in the Civil War, 1862-1865*. Lincoln: University of Nebraska Press, 1993.)

Aptheker, Herbert

1939 "Maroons within the Present Limits of the United States," *Journal of Negro History* 24: 167-184.

Baker, T. Lindsay, and Julie P. Baker

1996 (ed.) *The WPA Oklahoma Slave Narratives*. Norman: University of Oklahoma Press.

Barsh, Russel Lawrence

2002 "'Colored' Seamen in the New England Whaling Industry: An Afro-Indian Consortium." In

- Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 76-107. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Bier, Lisa
- 2004 *American Indian and African American People, Communities, and Interactions: An Annotated Bibliography*. Westport, CT: Praeger Publishers.
- Blu. Kare I.
- 2001 *The Lumbee Problem: The Making of an American Indian People*. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Braud, Kathryn E. Holland
- 1991 "The Creek Indians, Blacks, and Slavery." *Journal of Southern History* 57:601-637.
- Brody, Jennifer D. and Sharon P. Holland
- 2006 "An / Other Case of New England Underwriting: Negotiating Race and Property in *Memoirs of Elleanor Eldridge*." In *Crossing Waters, Crossing Worlds: The African Diaspora in Indian Country*, ed. Tiya Miles and Sharon P. Holland, 31-56. Durham, NC: Duke University Press.
- Brooks, James F.
- 1998 "Confounding the Color Line: Indian-Black Relations in Historical and Anthropological Perspective." *American Indian Quarterly* 22: 125-133.
- 2002 (ed.) *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Brown, Kathleen M.
- 1998 "Beyond the Great Debates: Gender and Race in Early America." *Reviews in American History* 26: 96-123.
- Burton, Arthur T.
- 1994 *Black, Red and Deadly: Black and Indian Gunfighters of the Indian Territory, 1870-1907*. Austin: Eakin Press.
- Calhoun, Daniel H.
- 1998 "Strategy As Lived: Mixed Communities in the Age of New Nations." *American Indian Quarterly* 22: 181-202.
- Chang, David A. Y. O.
- 2006 "Where Will the Nation Be at Home?: Race, Nationalisms, and Emigration Movements in the Creek Nation." In *Crossing Waters, Crossing Worlds: The African Diaspora in Indian Country*, ed. Tiya Miles and Sharon P. Holland, 80-99. Durham, NC: Duke University Press.
- Churchill, Ward, and Jim Vander Wall
- 2002 *Agents of Repression: The FBI's Secret Wars against the Black Panther Party and the American Indian Movement*. 2nd ed. Cambridge, MA: South End Press.
- Davis, David Brion
- 1997 "Constructing Race: A Reflection." *William and Mary Quarterly* 54: 7-18.
- Dramer, Kim
- 1997 *Native Americans and Black Americans*. New York: Chelsea House Publishers.

Faggins, Barbara A.

- 2001 *Africans and Indians: An Afrocentric Analysis of Contacts between Africans and Indians in Colonial Virginia*. New York: Routledge.

Forbes, Jack D.

- 1993 *Africans and Native Americans: The Language of Race and the Evolution of Red-Black People*. Rev. ed. of *Black Africans and Native Americans* published in 1988. Urbana, IL: University of Illinois Press.

Foster, Laurence.

- 1935 *Negro-Indian Relationships in the Southeast* (Reprinted: AMS Press, New York, 1978.)

Franklin, Jimmie Lewis

- 1982 *Journey toward Hope: A History of Blacks in Oklahoma*. Norman: University of Oklahoma Press.

Gallay, Alan

- 2002 *The Indian Slave Trade: The Rise of the English Empire in the American South, 1670-1717*. New Haven: Yale University Press.

Grinde, Jr., Donald A., and Quintard Taylor

- 1984 "Red vs. Black: Conflict and Accommodation in the Post Civil War Indian Territory, 1865-1907." *American Indian Quarterly* 8: 211-229.

Guinn, Jeff

- 2002 *Our Land before We Die: The Proud Story of the Seminole Negro*. New York: Jeremy P. Tarcher.

Halliburton, Rudyard, Jr.

- 1977 *Red over Black: Black Slavery among the Cherokee Indians*. Westport, CT: Greenwood Press.

Hauptman, Laurence M.

- 1995 *Between Two Fires: American Indians in the Civil War*. New York: Free Press.

Jeltz, Wyatt F.

- 1948 "The Relations of Negroes and Choctaw and Chickasaw Indians." *Journal of Negro History* 33: 24-37.

Johnston, James Hugo

- 1929 "Documentary Evidence of the Relations of Negroes and Indians." *Journal of Negro History* 14: 21-43.

Katz, William Loren

- 1986 *Black Indians: A Hidden Heritage*. New York: Atheneum.
1987 *The Black West: A Documentary and Pictorial History of the African American Role in the Westward Expansion of the United States*. Seattle: Open Hand Publishing.
1999 *Black Pioneers: An Untold Story*. New York: Simon & Schuster.

Katz, William Loren, and Paula A. Franklin

- 1993 *Proudly Red and Black*. New York: Atheneum.

King, C. Richard

- 2002 "Estrangements: Native American Mascots and Indian-Black Relations." In *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 346-370. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Klos, George
- 1995 "Blacks and Seminole Removal Debate, 1821-1835." In *The African American Heritage of Florida*, ed. David R. Colburn and Jane L. Landers, 128-156. Gainesville: University Press of Florida.
- Krauthamer, Barbara
- 2006 "In Their 'Native Country': Freedpeople's Understandings of Culture and Citizenship in the Choctaw and Chickasaw Nations." In *Crossing Waters, Crossing Worlds: The African Diaspora in Indian Country*, ed. Tiya Miles and Sharon P. Holland, 100-120. Durham NC: Duke University Press.
- Lancaster, Jane F.
- 1994 *Removal Aftershock: The Seminoles' Struggles to Survive in the West, 1836-1866*. Knoxville: University of Tennessee Press.
- Landers, Jane L.
- 1995 "Traditions of African American Freedom and Community in Spanish Colonial Florida" In *The African American Heritage of Florida*, ed. David R. Colburn and Jane L. Landers, 17-41. Gainesville: University Press of Florida.
- 1999 *Black Society in Spanish Florida*. Urbana: University of Illinois Press.
- 2005 "Africans and Native Americans on the Spanish Florida Frontier." In *Beyond Black and Red: African-Native Relations in Colonial Latin America*, ed. Matthew Reattall, 53-80. Albuquerque: University of New Mexico Press.
- Lauber, Almon Wheeler
- 1913 *Indian Slavery in Colonial Times within the Present Limits of the United States* (Reprinted: Honolulu: University Press of the Pacific, 2002.)
- Leckie, William H.
- 1967 *The Buffalo Soldiers: A Narrative of the Negro Cavalry in the West*. Norman: University of Oklahoma Press.
- Littlefield, Daniel F., Jr.
- 1977 *Africans and Seminoles: From Removal to Emancipation*. Westport, CT: Greenwood Press.
- 1978 *The Cherokee Freedmen: From Emancipation to American Citizenship*. Westport, CT: Greenwood Press.
- 1979 *Africans and Creeks: From Colonial Period to the Civil War*. Westport, CT: Greenwood Press.
- 1980 *The Chickasaw Freedmen: A People Without a Country*. Westport, CT: Greenwood Press.
- Littlefield, Daniel F., Jr. and Lonnie Underhill
- 1977 "Slave 'Revolt' in the Cherokee Nation 1842." *American Indian Quarterly* 3: 121-133.
- Littlefield, Daniel F., Jr. and Mary Ann Littlefield

- 1976 "The Beams Family: Blacks in Indian Territory." *Journal of Negro History* 61: 16-35.
- Lovett, Laura L.
- 1998 "'African and Cherokee by Choice': Race and Resistance under Legalized Segregation." *American Indian Quarterly* 22: 203-229.
- McDonald, Dedra S.
- 1998 "Intimacy and Empire: Indian-African Interaction in Spanish Colonial New Mexico, 1500-1800." *American Indian Quarterly* 22: 134-156.
- McKinney, Tiffany M.
- 2006 "Rece and Federal Recognition in Native New England." In *Crossing Waters, Crossing Worlds: The African Diaspora in Indian Country*, ed. Tiya Miles and Sharon P. Holland, 57-79. Durham, NC: Duke University Press.
- McLoughlin, William G.
- 1974 "Red Indians, Black Slavery, and White Racism: America's Slaveholding Indians." *American Quarterly* 26: 367-385.
- 1979 "Cherokee Anomie, 1794-1810: New Roles for Red Men, Red Women, and Black Slaves." In *Uprooted Americans: Essays in Honor of Oscar Handlin*, ed. Richard Bushman and Stephan Thernstrom. Boston: Little, Brown Publishers.
- 1984 *Cherokee Renaissance in the New Republic*. Princeton: Princeton University Press, 1984..
- 1993 *After the Trail of Tears: Cherokees' Struggle for Sovereignty, 1839-1880*. Chapel Hill: University of North Carolina Press.
- McLoughlin, William G. and Walter H. Conser, Jr.
- 1977 "The Cherokees in Transition: A Statistical Analysis of the Federal Cherokee Census of 1835." *Journal of American History* 64: 678-703.
- McLoughlin, William G., Walter H. Conser, Jr., and Virginia Duffy McLoughlin
- 1984 (ed.) *The Cherokee Ghost Dance: Essays on the Southeastern Indians, 1789-1861*. Macon, GA: Mercer University Press.
- McMullen, Ann
- 2002 "Blood and Culture: Negotiating Race in Twentieth-Century Native New England." In *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 261-291. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Mandell, Daniel R.
- 1998 "Shifting Boundaries of Race and Ethnicity: Indian-Black Inter-marriage in Southern New England, 1760-1880." *Journal of American History* 75: 466-501.
- May, Katja
- 1996 *African Americans and Native Americans in the Creek and Cherokee Nations, 1830s to 1920s: Collision and Collusion*. New York: Garland Publishing.
- Maynor, Malinda
- 2002 "Making Christianity Sing: The Origins and Experience of Lumbee Indian and African American Church Music." In *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 321-345. Lincoln: University of Nebraska Press.

Merrell, James H.

- 1984 "The Racial Education of the Catawba Indians." *Journal of Southern History* 50: 363-384.

Miles, Tiya

- 2002 "Uncle Tom Was an Indian: Tracing the Red in Black Slavery." In *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 137-160. Lincoln: University of Nebraska Press.
- 2005 *Ties That Bind: The Story of an Afro-Cherokee Family in Slavery and Freedom*. Berkeley: University of California Press.

Miles, Tiya, and Sharon P. Holland

- 2006 (ed.) *Crossing Waters, Crossing Worlds: The African Diaspora in Indian Country*. Durham, NC: Duke University Press.

Minges, Patrick N.

- 2003 *Slavery in the Cherokee Nation: The Keetoowah Society and the Defining of a People, 1855-1867*. New York: Routledge.

Mulroy, Kevin

- 1993 *Freedom on the Border: The Seminole Maroons in Florida, the Indian Territory, Coahuila, and Texas*. Lubbock: Texas Tech University Press.

Nash, Gary B.

- 1999 *Forbidden Love: The Secret History of Mixed-Race America*. New York: Henry Holt.
- 2000 *Red, White, and Black: The Peoples of Early North America*. 4th ed. Upper Saddle River, NJ: Prentice-Hall.

Naylor-Ojurongbe, Celia E.

- 2002 "'Born and Raised among These People, I Don't Want to Know Any Other': Slaves' Acculturation in Nineteenth-Century Indian Territory." In *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 161-191. Lincoln: University of Nebraska Press.

Perdue, Theda

- 1979 *Slavery and the Evolution of Cherokee Society, 1540-1866*. Knoxville: University of Tennessee Press.
- 1980 *Nations Remembered: An Oral History of the Five Civilized Tribes, 1865-1907*. Westport, CT: Greenwood Press.
- 1982 "Cherokee Planters, Black Slaves, and African Colonization." *Chronicles of Oklahoma* 60: 322-331.
- 1998 "Indians in Southern History." In *Indians in American History: An Introduction*, ed. Frederick E. Hoxie. 2nd ed., 121-139. Wheeling, IL: Harlan Davidson.
- 2003 *"Mixed Blood" Indians: Racial Construction in the Early South*. Athens: University of Georgia Press.

Phillips, Valerie J.

- 2002 "Epilogue: Seeing Each Other through White Man's Eyes." In *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 371-385. Lincoln:

University of Nebraska Press.

Porter, Kenneth Wiggins

- 1932 "Relation between Negroes and Indians within the Present Limits of the United States." *Journal of Negro History* 17: 287-367.
- 1933 "Notes Supplementary to 'Relations between Negroes and Indians'." *Journal of Negro History* 18: 282-321.
- 1943 "Three Fighters for Freedom." *Journal of Negro History* 28: 51-72.
- 1950 "Negro Guides and Interpreters in the Early Stages of the Seminole War, Dec. 28, 1835-Mar. 6, 1837." *Journal of Negro History* 35: 174-182.
- 1955 "Negroes and the Seminole War, 1817-1818." *Journal of Negro History* 36: 249-280.
- 1971 *The Negro on the American Frontier*. New York: Arno Press.

Porter, Kenneth Wiggins, Alcione M. Amos, and Thomas P. Senter

- 1996 *The Black Seminoles: History of a Freedom-seeking People*. Gainesville: University Press of Florida.

Price, Richard

- 1996 (ed.) *Maroon Societies: Rebel Slave Communities in the Americas*. 3rd ed. Baltimore: Johns Hopkins University Press.

Robinson, Charles F., II.

- 2004 "The Sexual Color Line in Red and Black: Anti-miscegenation and the Sooner State." *Chronicles of Oklahoma* 82: 450-475.

Rountree, Helen C.

- 1979 "The Indians of Virginia: A Third Race in a Biracial State." In *Southeastern Indians since the Removal Era*, ed. Walter L. Williams, 27-48. Athens: University of Georgia Press.

Saunt, Claudio

- 1998 "'The English Has Now a Mind to Make Slaves of Them All': Creeks, Seminoles, and the Problem of Slavery." *American Indian Quarterly* 22: 157-180.
- 2005 *Black, White, and Indian: Race and the Unmaking of an American Family*. New York: Oxford University Press.

Schneider, Dorothy and Carl J. Schneider

- 2000 *An Eyewitness History of Slavery in America: From Colonial Times to the Civil War*. New York: Checkmark Books. (Particularly chapter 9, "Indians as Slaves as Friends and Enemies of Black Slaves, and as Slaveholders: 1529-1865.")

Shoemaker, Nancy

- 1997 "How Indians Got to Red." *American Historical Review* 101: 625-644.

Sider, Gerald M.

- 2003 *Living Indian Histories: The Lumbee and Tuscarora People in North Carolina*. Chapel Hill: University of North Carolina Press.

Steward, T. G.

- 2003 *Buffalo Soldiers: The Colored Regulars in the United States Army*. Amherst, NY: Humanity Books.

Stovall, TaRessa

- 1997 *The Buffalo Soldiers*. Philadelphia: Chelsea House Publishers.

Strong, Pauline Turner

- 2002 "Transforming Outsiders: Captivity, Adoption, and Slavery Reconsidered." In *A Companion to American Indian History*, ed. Philip J. Deloria and Neal Salisbury, 339-356. Malden, MA: Blackwell Publishers.

Sturm, Circe

- 1998 "Blood Politics, Racial Classification, and Cherokee National Identity: The Trials and Tribulations of the Cherokee Freedmen." *American Indian Quarterly* 22: 230-258.
- 2002 *Blood Politics: Race, Culture, and Identity in the Cherokee Nation of Oklahoma*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

Taylor, Quintard

- 1998 *In Search of the Racial Frontier: African Americans in the American West, 1528-1990*. New York: W.W. Norton.

Thornton, Russell

- 1990 *The Cherokees: A Population History*. Lincoln: University of Nebraska Press.

Troper, Harold Martin

- 1972 "The Creek-Negroes of Oklahoma and Canadian Immigration, 1909-1911." *Canadian Historical Review* 53: 272-288.

Twyman, Bruce Edward

- 1999 *The Black Seminole Legacy and North American Politics, 1693-1845*. Washington D. C.: Howard University Press.

Welburn, Ron

- 2002 "A Most Secret Identity: Native American Assimilation and Identity Resistance in African America." In *Confounding the Color Line: The Indian-Black Experience in North America*, ed. James F. Brooks, 292-320. Lincoln: University of Nebraska Press.

Wickett, Murray R.

- 2000 *Contested Territory: Whites, Native Americans and African Americans in Oklahoma, 1865-1907*. Baton Rouge: Louisiana State University Press.

Willis, William S.

- 1963 "Divide and Rule: Red, White, and Black in the Southeast." *Journal of Negro History* 48: 157-176.

Woodson, Carter G.

- 1920 "The Relations of Negroes and Indians in Massachusetts." *Journal of Negro History* 5: 45-57.

Wright, Jr., J. Leitch.

- 1968 "Note on the First Seminole War as Seen by the Indians, Negroes, and Their British Advisers." *Journal of Southern History* 34: 565-575.
- 1981 *Only Land They Knew: The Tragic Story of the American Indians in the Old South*. New York: Free Press.

鷗月裕典

1997年「共生の試みと挫折—インディアンの共和国と強制移住」木村靖二、上田信編『人と人の地域史』〈地域の世界史第10巻〉山川出版社、331-374頁。

大森一輝

2000年『『黒人史』の境界／『黒人』史の限界—アメリカ合衆国における黒人コミュニティ研究の動向を中心に』『西洋史学』197号、63-75頁。

小山起功

1985年『『赤い白人』と黒い奴隷たち—チェロキー社会における黒人奴隷制の導入経緯』『専修大学人文科学研究年報』103・104号、1-21頁。

佐藤 円

2004年「マイノリティー先住アメリカ人とアフリカ系アメリカ人」朝日由紀子、糸井輝子、谷中寿子編『アメリカ文化への招待—テーマと資料で学ぶ多様なアメリカ』北星堂、103-138頁。

2005年a「セミノールとミコスキー—経済発展が生み出す光と影」富田虎男、スチュアート ヘンリ編『講座世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在 第7巻 北アメリカ』明石書店、86－101頁。

2005年b「インディアンと『人種』イデオロギー—チェロキー族の黒人奴隷制を事例に」川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』名古屋大学出版会、88-112頁。

猿谷 要

1968年『アメリカ黒人解放史』サイマル出版会。

清水知久

1971年『アメリカ・インディアン—「発見」からレッド・パワーまで』中央公論社。
(再版『増補米国先住民の歴史—インディアンと呼ばれた人びとの苦悩・抵抗・希望』明石書店、1992年。)

富田虎男

1997年『アメリカ・インディアンの歴史』（第3版）雄山閣出版。特に第6章。

藤永 茂

1974年『アメリカ・インディアン悲史』朝日新聞社。

本田創造

1991年『アメリカ黒人の歴史』（新版）岩波書店。